

8 調査・研究の実施

8-1 環境モニタリングの実施

1 主な環境モニタリングの内容(大気水質保全課)

県が実施する主な環境モニタリングの内容は、次のとおりです。

(1)大気汚染常時監視

「大気汚染防止法」に基づき大気汚染の状況を把握するため、一般環境大気測定局 10 局及び自動車排出ガス測定局 2 局の合計12 局で窒素酸化物や浮遊粒子状物質等による汚染状況を常時監視。

また、ベンゼン、トリクロロエチレン等の有害大気汚染物質について 5 地点において定期モニタリング。

(2)公共用水域及び地下水の水質の常時監視

河川、湖沼の水質の状況を定期的に把握し、各種水質保全施策の基礎資料とするため、52 地点においてBOD、CODほか 86 項目の水質調査を実施。また地下水の状況を定期的に把握するため、43 地点で概況調査を行い、過去の調査により環境基準を超過等し、継続的に監視するため 37 地点でモニタリング調査を実施する。

(3)ダイオキシン類の調査

ダイオキシン類による一般環境中の汚染状況を把握するため、大気 3 地点、公共用水域 10 地点、地下水 16 地点、土壌中 10 地点の調査を実施。

(4)騒音・振動の調査

幹線道路沿道地域の生活環境の保全を図るため、自動車騒音の常時監視を行う。

(5)地盤沈下の調査

地盤沈下を未然に防止するため、一級水準測量調査や地下水位観測を行い地盤沈下の状況を把握する。

大気汚染常時監視、公共用水域及び地下水の水質の常時監視、ダイオキシン類の調査、騒音・振動及び地盤沈下に係る調査結果については、「3さわやかな生活環境の保全と創造」及び資料編に掲載しました。

8-2 環境科学研究の推進

1 環境科学研究所(森林環境総務課)

環境科学研究所は、本県の将来を見据え、予見的、予防的な視点に立った環境行政の展開を支援することを基本として、平成 9 年 4 月に開所しました。

研究活動は、「自然環境・富士山火山研究部」、「環境健康研究部」及び「地域環境政策研究部」の各研究部門において、それぞれの研究者が国内外の研究機関と連携しながら、中長期的な視点から研究として取り組む「プロジェクト研究」、研究者が各専門分野において基礎的な研究として取り組む「基盤研究」、並びに緊急の行政課題に対応するために取り組む「特定研究」などを進めており、その成果を着実に積み重ねてきています。主な研究活動の状況は次のとおりです。

プロジェクト研究

研究テーマ	研究期間
森林と高原の環境を活用したストレス軽減法に関する研究	H18～22
廃食油を用いたウレタンのリサイクルに関する研究	H21～23
山梨県内の湖沼堆積物に記録された環境情報の時空分析	H19～23
富士山五合目樹木限界の生態系に攪乱が及ぼす影響の評価に関する研究	H19～24
富士山における環境指標生物を対象にした保全生物学的研究	H19～24
中山間地域における交流型地域環境資源管理システムの構築に関する研究	H19～23
山梨県の心血管疾患危険因子の地域差に関する研究	H19～24
県内におけるバイオマスの適正処理による環境負荷削減可能性の評価	H22～25
甲府盆地の夏季高温環境の実態とヒートアイランド現象の緩和要因についての研究	H22～26

特定研究

研究テーマ	研究期間
壁面緑化による温度上昇抑制効果と夏季の健康に関する研究	H21～22
県内における民生家庭部門の温室効果ガス排出構造の把握に関する研究	H21～23
県内の耕作放棄地の省力的な管理手法に関する研究	H22～23
野生動物被害防除技術の効果と影響	H22～25

2 森林総合研究所(森林環境総務課)

森林総合研究所は、昭和10年に林業試験場として設立され、その後、林業研修所、林産事務所、林木育種場等を統合した林業技術センターを経て、平成6年から山梨県森林総合研究所として、森林、林業、林産業に対する新たな時代の要請に対応しています。

森林の持つ環境保全や木材生産をはじめとする多面的機能をより高度に発揮させるための調査研究を行うとともに、再生可能資源である木材やきこ類をはじめとする森林副産物の有効活用技術、効率的な木材生産作業システムの確立、木質バイオマスの有効活用技術の開発に取り組む、幅広い行政課題に対応しています。試験研究活動の状況は次のとおりです。

研究目標	部門	研究課題	期間
森林資源の造成と管理技術の確立	育林・育種	都市緑化に適した品種の開発	H16～25
		長伐期施業推進に対応した育林技術の開発	H18～22
		落葉広葉樹育成のための光管理方法の研究	H19～23
		群状伐採による森林造成方法の開発	H21～25
森林環境保全技術の確立	森林保護	カツラマルカイガラムシ被害軽減法と被害材の有効利用に関する研究	H19～21
		カシノナガキクイムシの生息調査と被害侵入防止に関する研究	H21～23
	環境保全	生態的プロセスを重視した針葉樹人工林の林種転換	H18～22
		野生獣害を軽減する森林施業方法の実証試験	H18～22
		堅果の豊凶がツキノワグマの出没に及ぼす影響	H20～22
森林資源活用による活性化	特用林産	新たな地域特産品として活用できるきのこの栽培マニュアル作成	H17～21
		木炭等の土壌改良への利用に関する研究	H20～22
		特用林産物の機能性成分に関する研究	H21～23
	木材加工	集成材工場における生産効率化のための品質管理技術の開発	H19～21
		新等級ラミナを利用した構造用集成材の信頼性向上技術の開発	H21～24
		地域の環境に適したスギ心持ち柱材の乾燥技術の確立	H21～22
		簡易作業路作設手法の確立	H19～21
受託		利用間伐施業の評価－木材搬出歩掛り表及び事例集の作成－	H21～23
		未利用木質バイオマスによるエネルギー用材化	H21～25
		富士スバルライン沿線緑化試験	S45～
		高標高地域における松くい虫生息可能性調査	H19～21
		県有林モニタリング事業	H19～

3 衛生環境研究所(衛生薬務課)

衛生環境研究所は、県関係部局との密接な連携のもと、県民の公衆衛生の向上と、より良い環境の保全を図るとともに、地域における健康危機管理に対応するため、衛生・環境行政の科学的、技術的中核として、調査研究、試験検査、研修指導及び情報の収集・解析・提供を行っています。

環境に関わるものとしては、大気汚染、水質汚濁、廃棄物、土壌汚染、騒音、振動、悪臭、環境放射能、温泉及び環境指標生物等の試験検査や調査研究、技術指導を実施しています。

研究テーマ	期間
富士五湖補足調査	S55～
自然公園内における湖沼の水質管理に関する総合的研究	H20～22
付着藻類を用いた新しい河川水質評価方法の検討	H21～22
本県の水環境より分離したNaegleria属アメーバ株のDNA解析	H21
本県水環境における外来底生水生生物の調査	H20～21
「名水」および「平成の名水」の水質把握調査	H21
大気中フッ化物濃度の把握とその評価	H20～21
湖泥の有効利用に関する試み	H20～21
降水の性状把握調査	H20～21
関東地方の粒子状物質汚染実態調査	H19～21
光化学オキシダントと粒子状物質等の汚染特性解明に関する研究	H19～21
家屋内外の音響レベル差の実態把握調査	H21～23

4 工業技術センター(商工企画課)

工業技術センターは、県内企業の技術の高度化を支援し、その振興を図るため、研究開発、技術相談、依頼試験、講習会の開催、情報の提供などを行っています。環境問題については、公害発生防止に関する諸研究を基に、企業の環境保全活動を支援するため、集中的な巡回技術支援や講習会等を実施し、廃棄物のリサイクルや資源化の研究にも積極的に取り組んでいます。

研究テーマ	期間
●工業技術センター	
人工光利用による施設栽培ブドウの高品質化技術の開発	H19～21
燃料電池用金属セパレータの性能向上に関する研究	H20～21
環境にやさしい繊維素材を用いた編地の製品化に関する研究	H21
自然環境のもたらす保健休養上の効用に関する研究	H20～21
甲府盆地飲用地下水を中心とする水質特性の時系列解析および新規地下水調査	H19～21
醱酵食品残渣の有効活用に関する研究	H21～23
高効率太陽熱吸収技術に関する研究開発	H21～23
化合物半導体多層太陽電池の開発	H21～22

研究テーマ	期間
●富士工業技術センター	
ブドウ搾り滓を活用した家畜排せつ物の堆肥化および環境負荷低減化技術の開発	H19～21
新繊維素材(バナナ繊維)による製品試作研究	H21
地域資源産物の染材としての適応性に関する研究	H21～22
プラスチック廃棄物の粉体化技術の開発と廃プラスチックの再利用化の促進	H20～22
化合物半導体多層太陽電池の開発	H21～22
高効率太陽熱吸収技術に関する研究開発	H21～23

5 農業関係試験研究機関

(1)総合農業技術センター(農業技術課)

環境と調和した農業生産技術の開発のために、有機性資源の有効利用を目的に家畜ふん堆肥などの有機物由来肥料の活用試験や環境への負荷低減を図るため化学農薬・肥料を使用しない野菜類の有機栽培の実証を行うとともに、土壌の適正な養分管理技術について研究を行っています。

また、生物農薬の有効性の確認や有効かつ効率的な病害虫防除法の確立について検討するとともに、県内農耕地土壌の理化学性及び農薬の適正使用に関する調査も行っています。

(2)果樹試験場(農業技術課)

果樹の減農薬栽培技術として、耕種的・物理的防除、生物農薬、フェロモン剤等の化学合成農薬代替資材および天敵を用いた総合的な病害虫防除法に関する試験研究を行っています。

また、家畜ふん堆肥を中心とした有機物主体の施肥法について研究を行っています。

(3)畜産試験場(農業技術課)

食品製造残さ等の未利用資源を家畜飼料として有効利用し、資源のリサイクルや生産コスト削減を図るための研究を行っています。

また、豚ふんにブドウ搾り粕を混合することで堆肥化時に発生する悪臭を抑制する技術について研究を行っています。

(4)酪農試験場(農業技術課)

肉用牛の放牧による耕作放棄地の有効活用方法や耕作放棄地から牧草地への簡易造成方法に関する研究を行っています。

研 究 テ ー マ	期 間
●総合農業技術センター	
有機物施用土壌の適正な養分管理技術の開発	H18～22
ブドウ搾り粕を活用した堆肥の施用効果および環境への影響	H19～22
県内主要土壌の地力の推移と変化要因の把握	S54～
有機物連用土壌における地力窒素の評価	S50～
野菜類の有機栽培技術の実証	H19～21
適正施肥支援システムの開発	H20～22
●果樹試験場	
ブドウにおける減農薬防除技術の確立	H14～21
モモにおける減農薬防除技術の確立	H14～21
家畜ふん堆肥の効率的利用方法の開発	H18～22
未利用有機物の堆肥化による果樹園土壌の維持管理技術の開発	H18～22
●畜産試験場	
エコフィードを活用した豚肉生産技術の確立	H21～22
ブドウ搾り粕を活用した家畜排せつ物の堆肥化および環境負荷低減化技術の開発	H19～21
●酪農試験場	
肉用繁殖牛の山梨型耕作放棄地放牧技術の確立	H18～21

(5)水産技術センター(花き農水産課)

養殖技術の向上及び魚類生息環境の保全に関する試験研究調査並びに希少魚に関する調査研究を行うと共に、関係者へ指導普及を行っている。

研 究 テ ー マ	期 間
●水産技術センター	
溪流魚在来個体群生息水域の推定	H8～20
溪流資源増大技術に関する研究	H20～
人工湖の水産利用に関する調査	H19～
魚類に優しい取水堰の検討	H22
自然公園内における湖沼の水質向上に関する研究	H20～22
ホトケドジョウの繁殖研究及び生息環境調査	H13～
カワウのモニタリングおよび食害軽減に向けた対策	H14～
アユ種苗特性評価試験	H21～
新魚種養殖試験	H22～
バイテク魚の養殖特性に関する研究	H19～